

下北原発地点海域温排水等影響調査

木村 大・澤田兼造

発 表 誌 名

昭和56年度下北原発地点海域温排水等影響調査報告書

抄 録

1. サケ稚魚分布調査

5～6月にかけて延7回、(延111点)イカナゴ光力利用敷網により、1調査地点10分間点灯し、サケ稚魚を採集した。サケ稚魚は水深の浅い海域(5m以浅)で分布量が多く、また区域では小老部川～白糖沖で多かった。老部川での放流状況及び標識魚の再捕状況から見て、尾又長6cm以下のものは老部川放流魚と思われる。

2. 標 本 船 調 査

漁業種類別に操業海域及び魚種別漁獲量を調べた。イカナゴ光力利用敷網は、5月に猿ヶ森～泊沖の水深30m以浅の海域で操業し、イカナゴを漁獲していた。カレイ・カニ刺網は6～8月、小田野沢～白糖沖の水深50m以浅で、カニ・ヒラメ・カレイ類等を、ヒラメ一本釣りは6～10月、田代～白糖沖の水深6～55mで、ヒラメ・アイナメを、サケ刺網は10～1月、小田野沢～白糖沖の水深8～65mで、サケ等を漁獲していた。

3. 漁 獲 量 調 査

白糖漁業協同組合資料により調べた。タナゴ底建網は5～8月に操業され、漁獲の大部分はタナゴであり、その他ホッケ・ヒラメ等を漁獲していた。小型定置網は9月上旬から1月中旬まで設置され、サケが漁獲の大部分を占め、その他ヤリイカ・ヒラメ等であった。